

各位

三神地域農業指導者連絡会作物部会
三神農業振興センター

「令和7年産 麦作情報（第1号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり送付しますので、業務の参考にしてください。

1. 気象の概要（平年と比較して）

平均気温…11月はやや高く推移した。12月1半旬～1月4半旬は、全体的にやや低く推移した。（12月：0.1℃低温、1月1半旬～1月4半旬：0.6℃低温）

降水量……11月上旬と11月下旬にまとまった降雨があった。11月中旬及び12月以降は数日おきに少量の降雨があったが、12月1日～1月20日の積算降水量は平年比39%と少なかった。

日照時間…全体的に日照時間は同等又は長く推移したが、11月6半旬と1月3半旬はそれぞれ平年比58、65%と短く推移した。

2. 麦類の生育状況

（1）農試情報田の調査結果（1月20日付け 麦づくり情報第1号）

品種	播種期 (月/日)	年次	出芽期 (月/日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (L)	概況 (平年値または平均値と比較して)
シロガネコムギ	11/20	本年	12/3	8.4	436	4.4	[気象] 11月20日～1月19日まで ◆平均気温…0.3℃低い(当年7.6℃) ◆日照時間…長い(平年比107%) ◆降水量…少ない(平年比53%) [生育] ◆出芽期 「シロガネコムギ」は11/20播種で2日遅く、12/10播種で9日遅い。大麦は、12/2播種で7～8日遅く、12/10播種で3～4日遅い。 ◆草丈 12/10「はるか二条」は平年並みだが、「シロガネコムギ」、「サチホゴールド」ともに平年より低い。特に11/20「シロガネコムギ」は近10年で2番目に低い(平年比58)。 ◆茎数 11/20「シロガネコムギ」は平年並みであるが、その他の品種・播種期では平年より10～30%程度少ない。 ◆葉齢 全品種・播種期で葉齢は少ない。特に、12/2「サチホゴールド」、「はるか二条」は平年より0.7～0.8L少ない。
		平年	12/1	14.6	437	4.6	
	平年比(差)	+2	58	100	-0.2		
	12/10	本年	1/4	6.4	151	2.0	
平年		12/26	9.6	173	2.5		
サチホゴールド	12/2	本年	12/25	6.5	239	2.4	◆草丈 12/10「はるか二条」は平年並みだが、「シロガネコムギ」、「サチホゴールド」ともに平年より低い。特に11/20「シロガネコムギ」は近10年で2番目に低い(平年比58)。 ◆茎数 11/20「シロガネコムギ」は平年並みであるが、その他の品種・播種期では平年より10～30%程度少ない。 ◆葉齢 全品種・播種期で葉齢は少ない。特に、12/2「サチホゴールド」、「はるか二条」は平年より0.7～0.8L少ない。
		4か年平均	12/18	10.2	337	3.2	
	平年比(差)	+7	64	71	-0.8		
	12/10	本年	1/2	7.4	169	1.8	
平年		12/30	8.4	203	2.1		
はるか二条	12/2	本年	12/25	7.6	236	2.3	◆草丈 12/10「はるか二条」は平年並みだが、「シロガネコムギ」、「サチホゴールド」ともに平年より低い。特に11/20「シロガネコムギ」は近10年で2番目に低い(平年比58)。 ◆茎数 11/20「シロガネコムギ」は平年並みであるが、その他の品種・播種期では平年より10～30%程度少ない。 ◆葉齢 全品種・播種期で葉齢は少ない。特に、12/2「サチホゴールド」、「はるか二条」は平年より0.7～0.8L少ない。
		4か年平均	12/17	8.7	358	3.0	
	平年比(差)	+8	87	66	-0.7		
	12/10	本年	1/2	8.3	160	1.4	
7か年平均		12/29	8.4	228	1.9		
平年比(差)	+4	99	70	-0.5			

(2) 三神農業振興センター情報田 調査結果 (調査日: 1月20、21日)

場所	品種名		播種日	苗立数 (本/㎡)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	主稈 葉齢 (L)	備考
上峰	シロガネ コムギ	本年	11/23	177	15.1	493	4.3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平年の播種日は11/15~12/8 ・ 草丈はやや高く、茎数は多い。 ・ 葉齢から見た生育は進んでいる。
		平年	11/26	157	14.5	332	3.7	
		平年比(差)	-3	113	104	149	+0.6	
吉野ヶ里	はる風 ふわり	本年	11/25	125	12.1	296	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平年の播種日は11/15~11/23 ・ 草丈は平年並みで、茎数は少ない。 ・ 葉齢から見た生育は遅れている。
		4ヶ年平均	11/19	119	12.2	474	4.8	
		平均比(差)	+6	105	100	62	-1.4	
鳥栖	はるか 二条	本年	11/22	145	10.7	350	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平年の播種日は11/20~27 ・ 草丈はやや低く、茎数は多い。 ・ 葉齢から見た生育は遅れている。
		5ヶ年平均	11/22	123	10.9	275	3.7	
		平均比(差)	±0	118	98	127	-0.2	

注1) 「シロガネコムギ」の平年値は、H26~H29及びR4~6の7ヶ年のうち、収量が最高値と最低値の年を除いた5ヶ年の平均。

注2) 「はる風ふわり」平年値は、調査を開始したR3年産から4ヶ年の平均値。

注3) 「はるか二条」平年値は、調査を開始したR2年産から5ヶ年の平均値。

(3) 管内の生育概況

- ・ 大豆の収穫が遅れたことで播種作業は平年よりやや遅い傾向であった。
- ・ 小麦の播種作業は11月下旬を中心に行われ、出芽は良好で、現在4~5葉期ごろとなり、分けつの抽出が旺盛になってきている。
- ・ 大麦の播種作業は12月上中旬を中心に行われ、現在3~4葉期となり、分けつの抽出が旺盛になってきている。
- ・ 播種遅れと1月の低温の影響で生育は平年よりやや遅れている。

3. 今後の管理

(1) 追肥 (本葉3~4葉期頃)

- ・ 生育の状況をみながら、**葉齢3~4葉期頃**に施用する。
- ・ 晩播した圃場で追肥施用分も併せて元肥に重点施肥した圃場では追肥を施用しない。
- ・ 追肥の効果を高めるためには追肥後の**土入れ (5葉期以降)**が有効である。

(2) 麦踏み (3葉期以降)

- ・ 必ず圃場状態を確認し、**土壌が乾燥した状態**で行う。
土壌水分が高い時に麦踏みを行うと土が締まり、湿害を助長する。
- ・ 3葉期以降に実施し、麦生育の回復を待って、条件が良いときに3~4回実施する。

【麦踏みの効果】

①耐寒性向上 ②根量増加 ③短稈多分けつ型への誘導 ④早立ち防止で凍霜害回避

(3) 土入れ (5葉期以降)

- ・ 5葉期以降に、雑草防除と排水対策もかねて、圃場の条件をみながら計画的に実施する。
- ・ 土壌水分が高いときに行うと、土塊が大きく麦が埋まり土から出てこなくなるため、必ず土壌が乾燥した状態で行う。

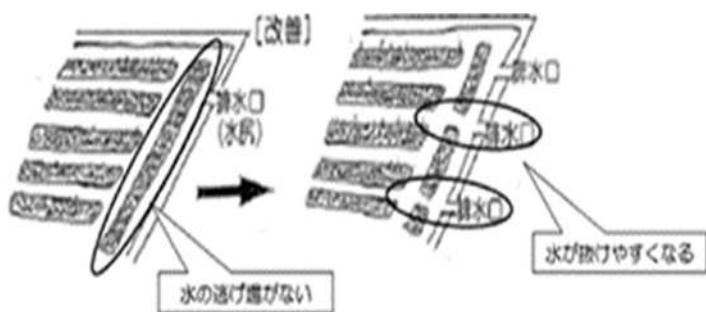
- ・土入れの量は生育初期は少なめに、生育が進むにつれて量を増していくこと。

【土入れの効果】

- ①防寒 ②保肥力増大 ③倒伏防止 ④無効分げつ制御 ⑤雑草防除 ⑥排水促進

(4) 排水対策

- ・排水対策は、分げつの確保や登熟向上・収量向上・品質向上に重要である。
- ・土入れに加え、まくら地の排水溝を整備し、圃場内の水を早く排水できるように努める。
→特に、トラクターカルチで土入れを実施する場合には、排水不良（うね溝の停滞水が多くなる）となりやすいので、うね溝と排水口とをつなぐように徹底する。
- ・近年は温暖化の影響で大雨が降ることが多い。水が溜まったら排水溝に逃がす作業を必ず実施する。



(5) 鳥獣害対策

①カモによる食害

- ・川沿い(筑後川、クリーク等)の麦においてカモによる食害が毎年確認されており、本年も被害圃場が散見される。
- ・被害が小さい場合、補償作用により減収も限定的だが、時期が遅く被害が大きい場合は、減収につながる恐れがある。



(症状)

- ・麦の地際部まで草刈り機で払ったように葉が切れている。
- ・周辺に鳥の糞が落ちている。



カモによる食害圃場

▲【カモによる食害痕】

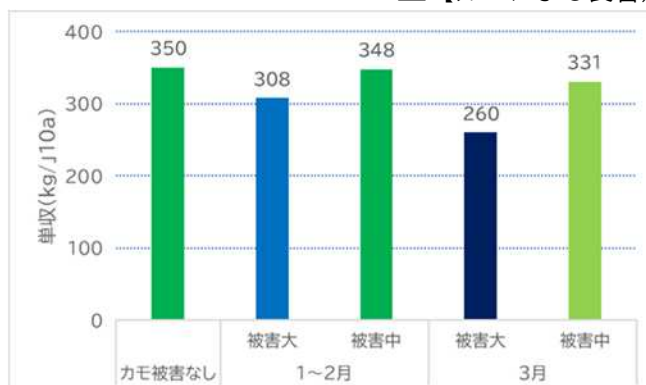


図 カモの加害時期別の被害程度と収量の関係

(対策のポイント)

- ・カモにとって居心地が悪い環境をつくる
- ・カモの生態(行動)を変える
→ 滞在時間を短くする、新たな飛来カモに麦を食べさせない等)

(具体的な対策事例)

吹き流しの設置

- ・ 2mの支柱に、長さ 2~3mのマルチシート等を 10a 当たり 5 本以上設置する。
数が多くほど効果は高まる。
- ・ 吹いたときに音が鳴らないと効果が落ちる。
- ・ 水路から侵入することが多いため、水路寄りに設置すると効果的。
- ・ 地域ぐるみの設置により効果が上がる。



②カラス対策

- ・ カラスによる被害は、有害鳥類の中で最も多く、加害対象や内容も非常に多岐にわたる。

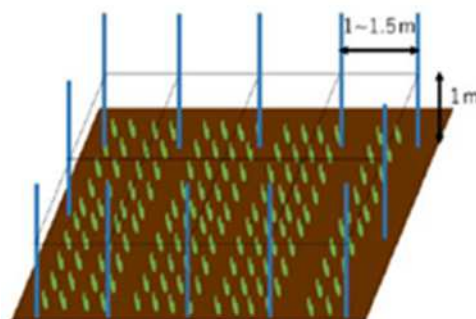
(症状)

- ・ 写真は播種後の種をくちばしで探って食べた後の被害圃場である。
- ・ 雑食性で、水稻や麦の種子もよく食べる。



(対策)

- ・ 黒のワイヤ線としなりやすい支柱を用いて、カラスの翼を広げた時の長さ (1~1.5m) の間隔で約 1 mの高さに設置することにより、飛来するカラスは嫌がる。
- ・ さらにテグスなどを張り巡らせると翼に当たるのを嫌がる為、効果が高くなる。ただし、歩いてくるカラス、ハトやカモには効果がない。



(次年度対策)

- ・ 忌避剤として、キヒゲン R-2 フロアブルを種子粉衣する。ただし、絶対的な忌避効果ではないため、周辺に他の餌が少なければ加害を受ける。

(6) 雑草対策

- ・ 一年生広葉雑草を中心に雑草の発生が目立つ圃場が一部で見られる。
- ・ 例年雑草の発生が目立つ圃場では、除草剤 1 回の散布では十分な除草効果が期待できない。麦の生育量確保と雑草種子の混入防止のため、下記の例を参考に体系的な防除を実施する。

【雑草対策の例】

- ①播種直後除草剤散布 → ②生育期除草剤散布 → ③中耕 (複数回) → ④手取り除草
※難防除雑草は除草剤 1 回での除草は困難。地道な防除で根絶を目指しましょう！

(注意)

麦踏み：麦踏前後の除草剤散布は薬害を助長するため避ける。

土入れ：土入れを除草剤散布後に行うと、雑草の蒸散作用が抑制され有効成分の根部吸収が妨げられるので控える(特にステージの進んだ雑草の場合、十分間隔をあける。)

麦圃場でよくみられる雑草 (広葉)



ミチヤナギ



トゲミノキツネノボタン



アメリカフウロ



ノミノフスマ



イヌタデ



ヤエムグラ



カラスノエンドウ

生育期除草剤 使用例

農薬名	有効な雑草	使用量	希釈水量	使用時期	総使用回数
		10a 当たり			
バサグラン液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	100~200ml	70~100L	雑草 3~6 葉期 小麦：収穫 45 日前まで 大麦：収穫 90 日前まで	1 回
ハーモニー75D F 水和剤	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ カズノコグサ	5~10g	100L	播種後~節間伸長前 (スズメノテッポウ：5葉期まで) (カズノコグサ：1~3葉期まで) 小麦のみ 播種後~穂ばらみ期まで 収穫 45 日前まで	1 回
	ハーモニー75D F 水和剤使用上の注意点 <ul style="list-style-type: none"> • 播種後にハーモニー細粒剤 F を散布した圃場は使用不可 • 薬害が生じ易いので周辺作物に注意 • 使用器具の洗浄をよくし、他作物との併用はしない 一年生広葉雑草の例 ミチヤナギ、タデ類、トゲミノキツネノボタン、アメリカフウロ、ノミノフスマ (ヤエムグラ、カラスノエンドウには効果が弱い。)				

令和7年産 麦類生育期間気象グラフ

(アメダス観測地点：佐賀， データ更新日：1月21日)

三神農業振興センター

